



A vertical ruler scale with markings every 1 cm. The numbers are black, except for '80', '90', and '100' which are red. A red arrow points to the 1 cm mark.

題徐濃地名考

色部義太夫義毅

我之有信猶彼之有蜀也山
峯巍以嵯峨水涒漯而揚波
人雄呵而英多徒時豪傑輩
出割據以抗衡窶窳鑿山齒
以北方勇闖矣山澤之間固多名

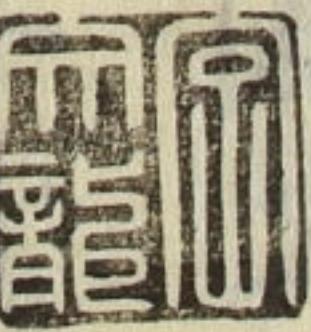
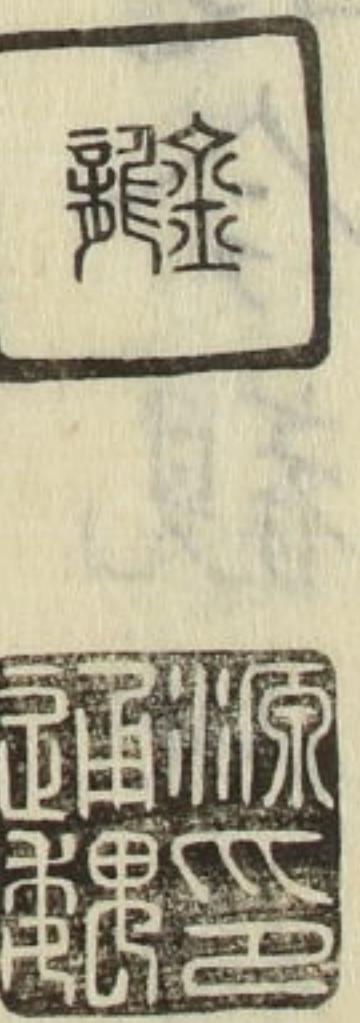
臣竊蹟唯以所在奧冥跡而
嶮絕游履者繁希矣雞山
吉君信陽人也生長巖崿體
便登陟幽峻必極為圖記事
以供臥遊之觀近者亦予曰山
川之美如此何不為之於中州

此好事者之所為憾也予將附
刻廟氏請子一言予乃闔之嘆
曰吾少有志于探勝中歲為
官所绊夙願不遂今觀此篇也
猶躬涉親覩焉此舉也豈
可無言乎遂題之

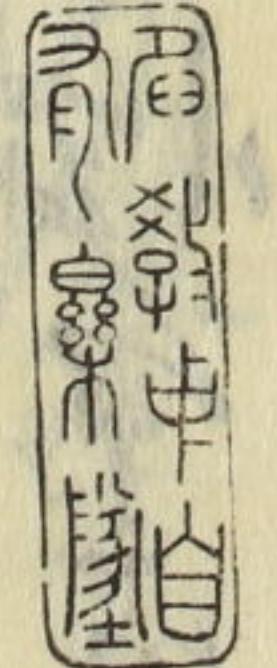
明和辛卯仲春望

信陽源通魏識

東江源鱗書



信陽地名考序



信陽之名固也。至漢五十餘里
在今汝南縣治之北。生人五員
元始甲子。下中丙子。戊辰之歲
有為淮。之。信陽。之。考。執。子。
此。自。信。公。始。有。此。而。風。土。

事於大寶山道祖也。後神
祠固已矣。考古刹之山也。治
京故址也。是也。不復有矣。
賴人贍之。於此而前流。劉安士
著游記。三十半矣。同
宗。或人。或其。以仰山性。奉一之。經於

穴。它。主四脉。山。爐。華。靈。符。
且。而。山。華。山。山。山。山。山。山。山。
坐。組。也。蕙。飄。亦。浮。之。不。羣。衆。
於。山。山。山。山。山。山。山。山。山。山。
當。坤。位。而。帝。之。首。間。山。往。也。也。
諸。翁。禪。坐。主。山。萬。東。之。禪。寺。

西面詩山事とあめの法はあま
のほは西出田の國もふ北都を
被り入處もく山の申ニ種差駒
森ノ事も申ニ多事活嶽山萬申ゐる
之に生れ、死る山萬々ノ招辭絶
万里南成方偏瞰残景山の中島

當成沃野廣宇摩は近山堂と稱
申シ以て有木林敷焉、之のれ
厚紙折壁に人烟未だ之を善
光也大不復有此是姫法山席、お
乳位前高き妙高山奈良城役主
山林城中、京中、白山峰號城二州

其山高々、沢に紫雲を抱く。既而
當も赤子省みたる事狀立伝。越々累
ね梅酒坂坂山往來在ふ。山と識
あらば、开支御界、美奈、深谷自掌
之處也。故也、或之へ遊歴す。おとえ、
喜代室三郎、おお吉、中四郎等

五十九年冬月、代波山也、老矣
孫附、見る見は、更山嶽までも少
様の山也。其年、立春まゝ、元井、二月、有
手、白、や、山、之、移上ともぬ。少、い、と、
二眉、今、春、其、手、め、り、丈、丈、其、武、其、孔

甲子正月十一日夜就火焚
燎高巖而燭胃羊牕以注靈
室矣。每移山者以爲其自能也
至高處、則神罕至。夜則有通
至崇基信流代者矣。雖々古籍
之數以海而わ前極之山也。山丘

御祠於寺院北一里半也。山也
或并以圓。少者如輪。不遠也。
未免也。周向上或过年四阿也
也。余之未有成矣。於是序。

明和庚寅舊日

穴也。自是伯宇甫深

言葉事のうちもまことに付めをすからうり
大流形うこまさへ海川聖ひそれ名おほ了
アラムのよしゆとあは故寧樂あよてれ下
きんきんこちよの御代詔國[○]よおよせ
がいゆつまじゆく海川聖ひづゆとよを
くそ國[○]よよアリ出るよくよまで事でまく
しまひ詔國[○]の風土記よよくうきとくは

見聞
國高
七

わづひよりはまくらをこきまくらゆ
まくでちらべ名うるわしりひア
まひもまゆまゆりのやはにそ
じとくをあくべりへあやめ
名くらをあせとすとすまゆ
をもじりてまくらはまくらは
まくらみまくらはまくら（圖）にもくら

吉庵アキラヒアヘトイカキヒムテ
あまなく古の事もよもアヌドロモシル
彼アリル國ア名アラヒアラア名アラヒ
アラヒアラアラアラアラアラアラアラ
トヒイシヤンカリシキシマシルアラアラ
アラアラアラアラアラアラアラアラ
トヒイシヤンカリシキシマシルアラアラ
アラアラアラアラアラアラアラアラ

地名考より云ひ、まことに、まよけをぞよがハ
まはゆんともぞれくよれ名まよじらう新う
あすけぬをうちよちよく金きありもあすてこ
ことくまきまくちよく金きありもあすてこ
为よしよしてちよしりよ金きと

以れハナリ矣。且都事氏宇方はすよ

信濃地名考目次

上編

一信濃道國形一延喜朝古驛五郡

伊奈諏方筑摩小縣佐久

共十五驛

今驛四郡

筑摩小縣

諏方共二十六驛並圖

一倭名鈔

信濃國

卿名有七考見于五郡上卷五郡中下卷每郡附姓氏

一國郡名義並鄰近地名考一諸郡更實補遺

中編

一神御坂

伊那南郡之圖

一菌原

伏屋里筭木木賦曾乃原山之說

一信濃乃野

一伊奈乃郡

一管乃安良野

一櫛乃關

一風越峰

一浪乃里

一安多之野乃山

附富士吉國三中之說

一諫方湖

古礼毛我御崎衣ヶ崎天中河

南方刀美神社

風祝部

御射山

穗屋神壹穗屋野之說

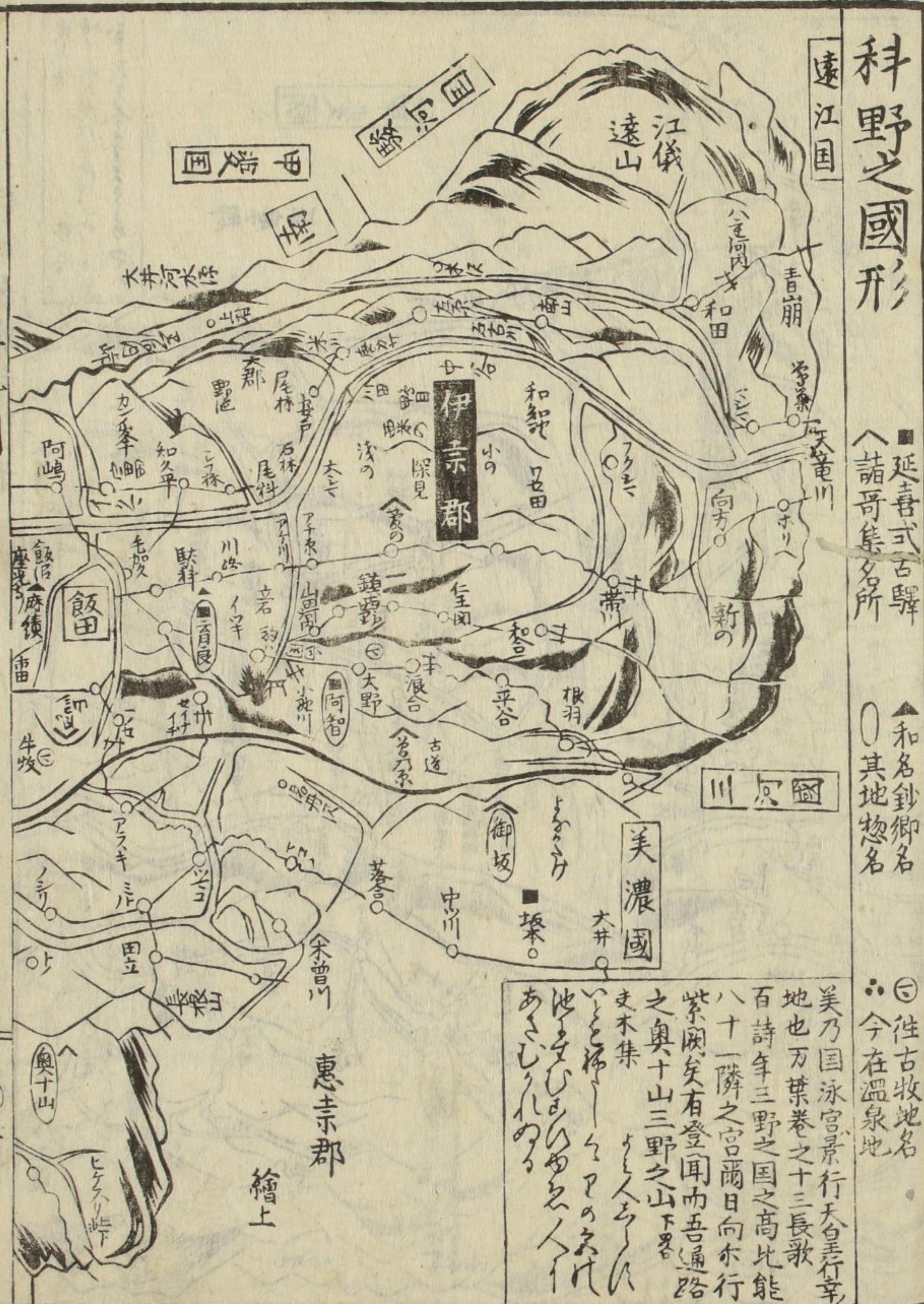
一木曾梯

御坂川路麻衣吉蘇小吉模之辨

寢覺床

非名處

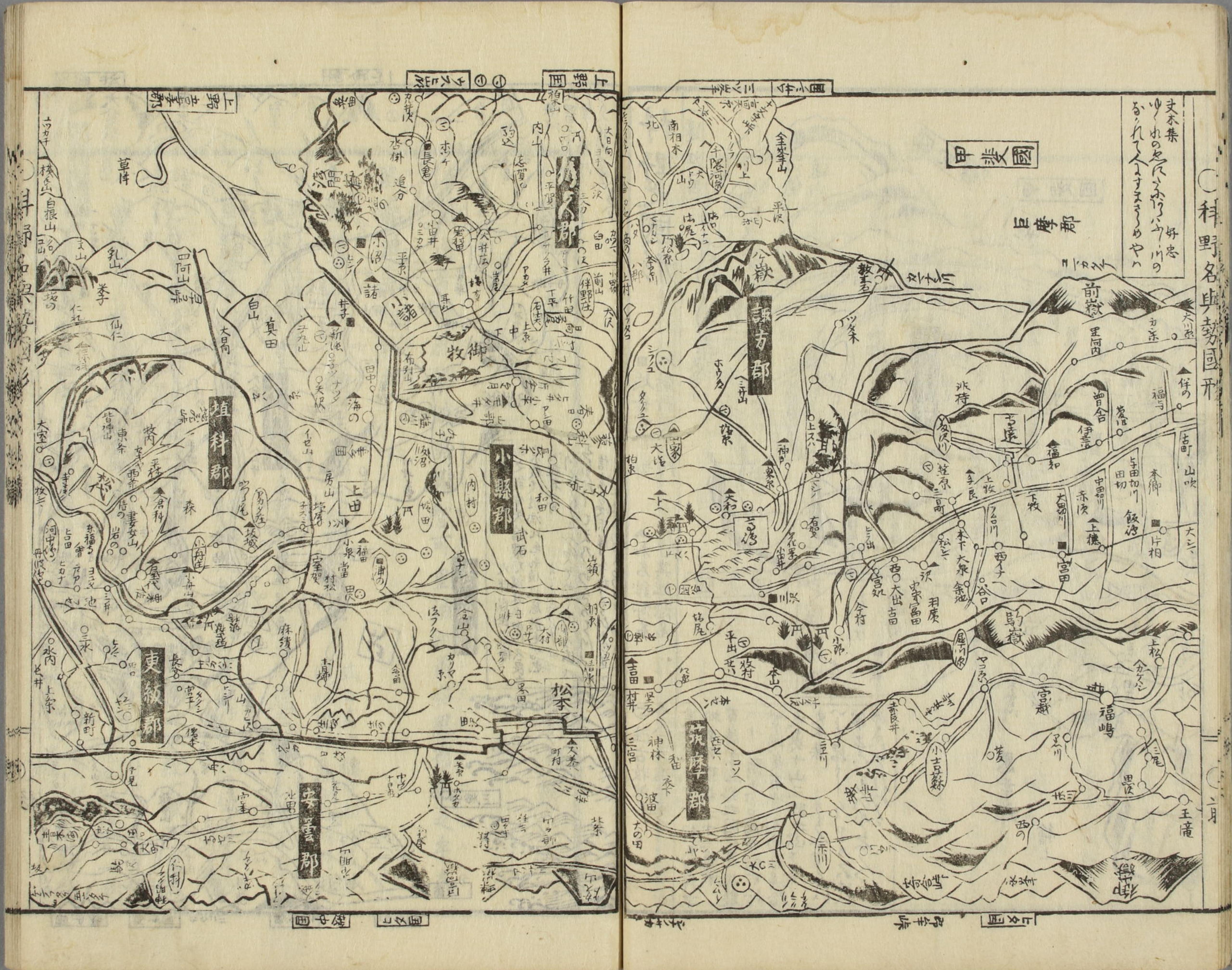
駒嵩之名義



傍観の誹笑のれん

一本弓を安曇郡と誤傳する、源平盛衰記より國史並者の文例あり。既に三代文庫より
の如き坂上峯をもて更濃と筑摩郡の境ともり證ゆ。又みづれに信濃十二郡と記す。是も
之が私見也。世の遺稿也。按よ中代よりれ地名も戰國よりて跋扈の軍こう氏りて僭改する
ものす。あくへん。

一地名に部の故あり半は國史よア大伴部諸名部山部等の類ひ是あり又姓ノ出る地名を
多ア。され姓ハ七道の多くアリ。京畿よ輻湊する。其甲姓ありもの平城嵯峨兩帝時代よりて
凡姓氏一千一百、十二氏と云。今當國の一ニを采てつゝ續日本紀桓武の延暦八年信濃國筑
广郡人後部牛養等賜姓田何造ト云姓氏錄小後部高タカシマ今執田光村是也又三代矣
錄清和の貞觀五年諫方郡人金刺舍人賜大朝臣ト云大虫の地名是也キツチ大虫タヌキ今属伊
安坂ミサカ常澄ヨウジンと氣ヒすり、上の語カタカタ古イニシヘモトロ井モトロイと茂田井モダニとす。下の彌ミアリミルニハリ
とさうらハ音の通く或、清内キヨナの氏骨カハ子と清内路ヒキナリ三歳ミトセ祝部ハツブト三才ミツサト五何イツカト東ヒタチアリシテアリハ
後世字音よよこゝ俗習也。又多ア。或條里町友の字、田令タケニよ出、餘戸坊保カハタケニ、今アマニよ出神服嚴木イツキ、
神祇令、安具餘山川物色カハタケニあら地名カハタケニアリ。是其大畠カハタケニ益草創カハタケニ其國カハタケニ山河物産カハタケニ
よりて名づけられん。例りて、一地名多ア。謂也名花の同名。又かねて且園郡の分塊カハタケニ沿草已
久々カハタケニに在仁文明の泰剥天正カハタケニよもて百々カハタケニせぬ。御村の興廢得て、之カハタケニ雅名寔カハタケニて適
俗稱遺カハタケニ。今や敷暖の民勝地カハタケニよもひ頃詠の跡カハタケニを慕ふやもすれを此譯カハタケニよ及ぶ。於是俚語カハタケニ
云々と撮土の見聞と奉り半もよそえのと一信の國さくの郡故大井代送民窮カハタケニもあらず



信濃地名考上編

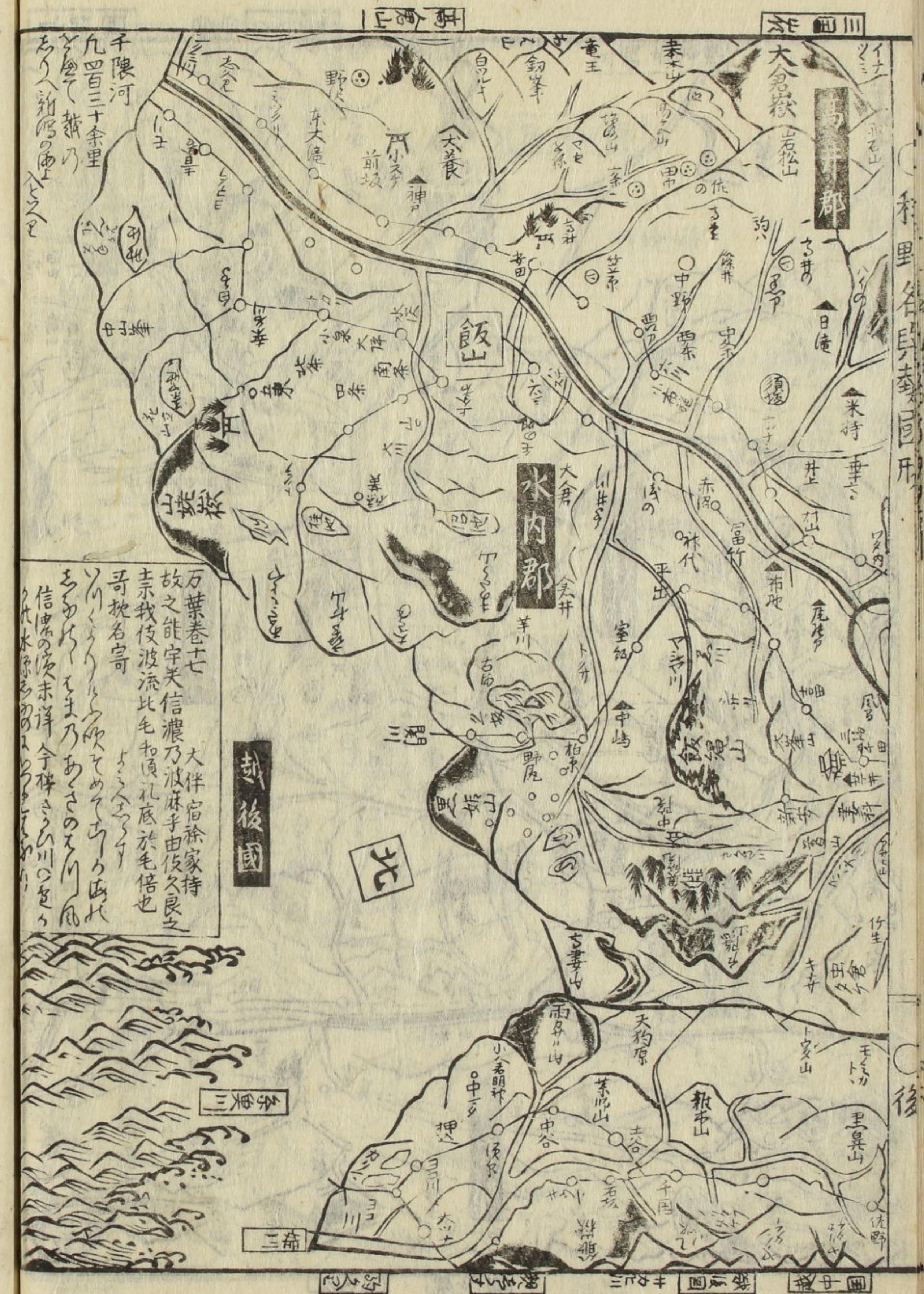
吉澤好謙輯

信濃地名考上編
吉澤妙謙輯

万葉古國哥
志那乃路

信濃道者伊麻能波里美智可里波祢爾安思布麻之牟奈
久都波氣和我世

按古事記曰 神ハ井耳命之後科野國造トヘ國、或曰高穴穗宮、朝以茨城祖建許意命定科野國、成務帝の御ミテリふへー 日本紀曰 天武天皇十三年二月遣三野王小錦下采女ナメ臣筑羅等於信濃國令看地形將都是地歟ムカシ又夏は始めのみに在リ矣也史乃とニ茅房マツルを參りて往はの國形と進と云々を續 日本紀文武天皇大寶二年三月信濃國獻梓スギ弓一千二十張以充太宰府ニ又慶雲元年四月信濃國獻梓弓一千按文武紀十二月閑山齊明紀
四百 張、
茲年十二月始開美濃國岐嶺山道十二月群蠅等、夏史筆月乎大寶三



年正月遣從六位上多治比真人三宅麻呂于東山道巡省政績同
二月甲斐信濃越中但馬土左等國一十九社始入祈年幣帛例 按信
名神五 みく 三月信濃國疫給藥療之 又慶豐元年三月信濃國疫
座是乎 みく 又和銅三年二月疫とぞひを 同四年
三月給鐵印凡二十三國使印牧駒犢 先是文武帝即位四年三月
令諸國定牧地放牛馬云 元明紀和
銅元年小治田朝臣宅持信濃守に任とみく 八月始行銅錢
同二年三月甲斐信濃上野等七國と徵發して陸奥越後二國の蝦夷
小備一じ 事見于高井 郡日野條下 同六年五月幾内七道諸國郡卿名著好字其
郡内所生銀銅彩色草木禽獸虫等物具錄色目及土地沃瘠山
川原野名号所由 延喜民部式曰凡諸國部内郡里 欽年令信濃國獻疏黃
等名並用二字必取嘉名云 元正紀養老五年六月割信濃國始置諏方國 欽年八月以諏方飛
彈詮美濃按察使聖武帝

神龜元年流配の遠くを定め沙門諏方國伊豫國とテ流され後天平
三年廢諏方國并信濃國 同十年春信濃國獻神馬黑身白鬚尾毛
八月令天下諸國造國郡圖 進とんねり吾志の國と郡と十にあがち方ハ
あひれ時を以て孝謙天皇天平勝宝六のと一二月信濃國防人部領使上
道が奉ゆるの歌万葉集小出で神の御坂は名うにわゝるが平城天皇大同年
中傳教大師爲衆生化道下東國信濃の嶮とよし山中旅店稀々と
欲と廣濟廣極は二院と建とみらしと人といつてひとすえ 院陥點有
便美乃境内名廣濟信濃境內 名廣越也見元亨釋書共地未詳 和銅のひく岐義院の名、有たひく延喜
御宇驛路ハ多に伊那の郡にりと延喜式小所謂驛佐伊那諏方筑摩
小縣佐久五郡にとひて伊那郡行馬十足諏方筑摩小縣佐久四

郡名五足と云へども、此由馬守馬夜の地

●阿智 驛馬三 同十足 ●育良 同十足 ●贊錐 同十足 ●宮田 同十足

●深澤 同十足 ●覺志 同十足 ●錦織 同十五 ●浦野 同十五

●亘理 同十足 ●清水 同十足 ●長倉 同十五 ●麻績 同十五

●亘理 同五足 ●多古 同五足 ●沼邊 同五足

孝德紀曰大化二年始置關塞防人驛馬傳馬及造鈴鑰定山河。聖武天平十一年令天下諸國改駄馬一足所負之重大二百斤以百五十斤爲限。按延喜兵部式信濃國驛錦織浦野長倉以下六駅前後紛亂。古之宮田以上四駅、伊那は恐れを深澤八坂方覺志八坂摩郡小坂と亘理清川海織も坑摩りべし浦野亘理麻績三駅ハ小縣よりかへ一多布保を主食ハ佐久郡とモベ一長倉とモ碓氷谷の南に有也且村屋子一浦野長倉ハ大田署七十五六里と隔り中には千隈村のそりあり四駅にまつらに草木すゝいひの書法上様アタマのと心の如き考ふ一誤ほれを御手の事にも多くある。寔に古の今の事例を誰かアシヌ。多岐とぞも其圖中にスル。

官道圖

○美濃國恵宗郡坂本

倭名鈔坂本即名即是

按續日本後紀仁明帝承和五年恵宗郡大井驛家人馬共疲官倉貢付因茲坂本驛子悉逃諸使擁基國司遣國造真祖父令加教喻於是逃民更坂連蹤不絕と云へども今大井驛中津川の間に坂本駅と仰るに坂名トナリ御坂 惠奈嶽ハ美濃信濃兩國の境伊那郡西南にあると御坂越と云ふ。彼アケイ奈はも登て遠小を乃系と云ふ。阿智の次にアシヌ。又アシヌ。わがノリセ小日本武尊披烟凌霧行ヒ薩間と跨於信濃坂是より後世六曾部入道坂の因例代役小坂であると云ふ。又根と申す御坂と云ふ。色ぬくと後世本草の陽坂と申す。神社御坂今ハ野草と申す御坂と云ふ。かくいだ 駒場をも小野川名は至る。坂本に申す凡三十余里ト云

○科野名典藝

卷之 上編

三

○信濃國伊奈郡
菌原 伏屋里

その京のうちには多く旅人となりと云う今廢て久々少く
見不る一民家下に有る

みちをく日もよがれか年やとハそのつゝと往來をやう

六條院大進

接名は京の東北壹神ノツノ村ノ阿智の神社ノモニ西北より源川

川ノミ駒場と云ふ遙に天龍川入る神名式に伊那郡二座阿智神社大

山田神社と云ふと舊事紀天思兼命

自註

天降信濃國阿智祝部等祖

いほ下りかぬ一郎坂を至りて右に大野

式の大野

牧昂是左小野川駒場を

牧の地小野川駒場約

茅は地名云ふ

信濃國伊奈郡阿智驛

已廢其地未詳唯阿智川の名を下流から至る村也

延喜式曰阿智驛子免課役云

えたり

按阿智の名を上古本国樞要地也

駅馬三十疋

傳馬又中代に開と置多岐會地の開け歌ふる今も家の駒場中向

十足

三十疋

閑と二村對^{アカ} 阿智吾道會地標の閑

皆通用してあらりて

育良驛

已廢未詳今飯田城南阿智川以北稱伊賀良庄唯伊賀良庄之名存

東鑑伊賀良庄

尊勝寺領

郡戸丸

殿下

今郡戸庄ノ飯田の北にあリ伊賀良庄

七十余里いハ曠野多シ萬葉菅野有之也今野史曰神代大光明持命巡行此國到坐阿羅野

云今にち川のあに菅野村

余

ノナノ内滝口道則宣旨を弟立陸奥ヘアリシキ小行法國ひくとづ

不レヤジタウノ郡可トヤヒルヒ御モトビト裁モ又云奥郡は郡可小

此例トテシヒヤトトセ^{盛衰記}信濃國奥郡^{今も河内嶋四郡と云}接古駅五郡の中にも

地名云々を奥郡と云ひてハ伊索の郡可トモアリト絶らくひくハ

按輔衆ハフモロ音通リ々ホムラヲシテ今之上穂ノ郷をモベ方言和夫
波と和と嘗ては音便の半濁保とミト濁るも清濁かと定義らくひト一
此郷にト下わきトモヤウシヒサケハ順ウト穂村トテとの字異ヘキ
やアカ一或云此地姓ニ陽德乃ナアト穠の姓也名にナシヒシムヤト
ツド未りテひしタ此郷小穠も多事ヘイマズ●麻績郷廢跡不詳平家
物語にシミナシテ先キトスルハサウタニシの割とヒトシトシ記小伊素郡麻績郷
宇治邑にテ下善光寺如來を居する事有古今の座光寺村不捨山如來寺
シテ其を以て飯坂村トシテ是宇治の名也村トシテ本郷もモキリシ
ホカヨリナカバ一○フカヨリソ他名トシテ一の姓也一木本郡もモキリシ
即ち木山の今之伴野・木山・木原・宍助・久保・茅野の村ノ大伴郡

佐久郡・猪名郡・麻績郡・久米郡・互良・三原官所寄姓より下今の大古
小出寺オホハ多の姓許姓に姓に改ふ金一郡戸郡殿ひ一ハ殿來唐笠ハ笠的
傳ハ育イク波云月良ハ伊部の韓カナアリテシテ有り枚拳に附わシモ
諏方郡深澤驛 按湖水西方廢三澤邑をもいとゆるはるはの沿うより自宮田八五十
四五里

首首
あしとや源方の次にひよろくとくちか駒の通うめひん 前參議親隆即

美和方廢大存
桑原存
神戶存
山鹿也未加己
廃入

按土武ハ今の富部よりべー・佐補ハ今のはきをひそみとあくまでねむー
豆良ハ今れよひそもー・美和ハ今乃大同よりべー

六

●神戸ハみちうろも國史に云ふ方神小神田モタタキ事アリトモ
東洋接に馬寮式小山麻敷と云てナリ東船大檣牧則モ地名アリヤ
二村りと都ケサモト
ム浦ナハ行モリ
山鹿御山モウラヒアマツ一集ヘ今ハ村モ古村也伊奈郡
属ヘ二十里南にも●つゞリシモト郡の地名今ノ須栗ハイリの村也今ノ
岡仁谷ハ岡谷也桑原柏原佐波安豆良大和の影響ひそむ姓をもト今は炭原
田ハ桑原モリ山原ハム部也山鹿山家シ却同ノ郡の言ハタシノ家
トモ金トモシテ是ニ又筑麻郡にツメ
の姓にゆゑタベ一釋底ハ蘿宮郡タタベ三代實錄曰元慶五年十月信濃国
授正六位上池生神從五位下云按今池之岱村アモ岱生の神其他アリモトモ
●按諏方郡ハ天平年中並省ヒ定ム他ヨリシテ此作久小縣也筑摩伊
奈の四郡ヨリアリ洲羽比域也云ヒトカリハ或曰、トとは代々阪訪神

久邪に在りとて遂邪の心もすむありとせば世云坂上田村磨惡賊退治
の願からく諫方社と建らむと 嘗国筑摩安曇雜記よりに國史に桓武帝
田村磨中房山の妖鬼と誅モ 檀日本後紀曰大納言
延暦二十年征夷將軍坂上田村磨征東夷アマヒシ也 按日本後紀曰大納言
正三位兼右近衛大將兵部卿坂上太宿補田村丸刈田丸子犬養孫身長五尺八寸胸厚一尺二寸目如蒼鵠鬚編
金絲有事而欲重身則三百斤欲輕則六十四斤隨心所欲怒目轉視則禽獸懼伏平居談笑
則老少馴親弘仁二年五月終時歲五十四云

筑摩郡與覽志驛 和名加々之旁例也。今の堅石村古驛は汲き水の深い所也大器。
二十六七里ノ所也。

ごく數千里の嶮難四蹄をひどくもぬる色の東衡ヒラ原村に牛伏
寺あり其故をつゝ。世傳泉小次郎親衡勁力勇氣傑出万人或肩大
船而幸于水陸よしのり按筑摩郡泉の產をもく。 親衡源滿快文子
萬國九郎系泉文子

地名うへ官道小ちてゞぞ ● 總社 方言曾 ひやへ國府からくと惣社を連

字座

有事于國內官社則國司率僚屬先修典禮於此其儀如京師神祇官どゞア
令東向の北小惣社村シマ傳廟應仁文明の亂スミと四司子すり給ひと筑摩是古府
終に衰敗スルいとゞ ● 筑摩郡は大郡ヒコ式内神三座ミツサヘ更級郡小郡小式
内神十二座トシサヘと及ひわくもや古語捨遺曰至天平年中勘造カウジ神帳ミツカウジ中臣專權
任意棄捨有由者リヨウ少祀皆列スル無縁者ムジンガ大社猶廢敷奏施行當時獨步クニ按小中臣の
權クニもく神ミツ不享ハシラ一木曾ヒタチ

錦織の驛 已廢其地不詳 倭名鈔錦服御錦部 共通

きくねのわくとえことえをきくはくとくべり

あらがはけゆく浦野の間にあらまくらやくまべー又宿咸吉スルとくらりー

倭名鈔筑摩郡

御名六

良田 方吉田村

宇賀 曾加按宇傳

辛犬 加良以奴即木養也シマニシマ村シマ川シマ

存ス

寫誤冥作宗

● 按和名鈔山部の御名諱字シマニシマ避スル如シマ山部シマ桓武の脚諱故に避之乎大伴ヒタチ淳和の脚諱故に
大伴ヒタチと登スル母ヒタチ訓スル例スル桓武延暦の詔スル臣子之禮必避君諱スル自今以後改姓白髮部シマ爲真髮部シマ山部シマ爲山部シマ● 山部卿今山邊シマ傍スル非スル山部シマ和名倍スル也シマ末山邊シマ能倍スル也シマ

大井 未考或

按曾加ハ今之脚原の毛シマ也シマ家シマ宗賀シマと菅シマハ相合スル例スル也シマ

今藪原の奥シマに爰シマ村シマ也シマ地名大下シマ洼田シマジニテ原シマ岩淵シマ厨シマ老平シマゴバアレ以上シマ木曾シマ

後シマにわくせスル也シマ也シマもひくスル ● 辛犬ハ辛犬シマ食スル一シマ字シマと背スルもくと按安閑紀曰

二年國々置大養部シマ光孝實錄仁和元年信濃國百姓辛犬甘シマ秋子向官愁訴

もくとくも其他シマなシマ一シマ民部式曰凡諸國部內郡里等名並用二字必取嘉名シマ

去順り御名の字と省ひてあらとソトモヘ ●錦服卿ハ按清和帝貞觀

六年二月越後久高橋朝臣丈室麿卒丈室尤京人本姓膳臣又姓錦部信濃國人也
五代祖膳臣金持娶信濃國人錦部氏女下畠山波郡もく地名也同史貞觀八年

二月伊奈郡寂光寺筑摩郡錦織寺更級郡安養寺埴科郡屋代寺佐久郡妙樂寺並預之定額御書註此給藏寺もく地名也額猶數

吉田田口大村清水出水麻績岡田竹田英多秦拜志阿礼アレハ荒姓地名未詳許曾部の新

生野生坂等八生部を除く伊深ハ伊福郡安坂ハ味酒部を除く角平も角川姓に
出す者執田光ハ後部高タク延暦八年筑摩郡人外少初位下後部牛養

無位宗守豊人等賜姓田阿造カサカ按田阿の阿何は誰れ後部高乃時小毛也し ●貞觀九年授

信濃國正六位上薄水神從五位下按今のモリ町を除く

小縣郡浦野驛自堅石大畧六四五里小ち

万葉十四
可能古呂芋宿受屋赤里赤牟波太須酒伎宇良野乃夜麻爾都

久可多與留母

按浦野ハ谷の總名今馬越けうやまを筑摩郡保福寺絕頂を東へ下りて
名小丸冲当樹立村遙に山の上にアヤ當樹ハ古樹の跡名をふへ

ノ村名を後世が承認とりこよるはめの地名とすえども

麻績のうす

前に亘理清ゆ等の傳例に於ける此地もちよ川と號く亘理清水
の証あつて

麻績騎靡アシカニと今訛ア形にシテシテアシカニと云ふほど延喜の時更級郡に
属し、之は小毛也しと旦あ國の証皆五郡に限りもむりと解ふらくハ

麻績はすゞ御中は他多く水災に罹りと云ふ。今直門の遺名と
或河渡真戸工佐

おほくまへかのこころり七八里西小越戸村ちと
皆通用水邊地名

もあはべ

自浦野水のまこと（大畠十七八里）

皇
まほのちにくわらは門中皆ひ乃成とひたる
逍遙院

接に東方郊を上回、北山のあぐくふはし海壁根は三ヶ所とせき、田や難の駒に

○鹽尻盛衰記

千隈川又山の狭間とひく
ノ波佐麻上雲
皇極紀谷此云波佐麻 大平

徳高は必ず、村へ領積の差引や、もちらに坂井が地石を以て、わが代小移す。

予不以少也之德而彷彿於小縣之海內也。余不以少也之才而流於南也。

●上田の北にびややまの地名を梅に牛飼ひよみの名を以て房へ清字がよく

年、西字をもじるべし。年半聲也。又、東方の音、みち又は日、或は峰、兎、以爲也。

國分寺並田分所寺、承平年中、延南都更ノ寺也。朱國分寺也。

十四日午後轉讀寂勝經，布施三室絲三十斤僧尼各絕足綿一屯布
二端定坐沙彌尼各布二端但供養用寺物是神護應云

二年制らず而え、も今猶八日堂と呼ぶる所也。●海野卿ハちひさきの

名跡しせに云延喜のひとを滋野氏と小世とがすみとや後に海野根は名月

根津、又復目田又付之復目左近將監國平奥川の役參衡追討の賞として

信濃國、復目村の地に歎と仰ぐ。一家へ其地ノ中、爲夫之原ノニ、ニ弗國志之
國平源滿快後伊宗太郎

ニ男ト
ノミ ●三張村今小縣郡に屬モ馬寮式新治牧是也又塙河吉田アリ示南北

倭名鈔小縣郡

御名八

童女 和名乎

山家 也未加

童女 義宗

山家 未詳

須波 方廢諱

跡部 和名爾

福田 存

安曾 已廢上本鄉

須波 方部存

餘戶 廢

下鄉二邑存

海部 廢

餘戶 廢

按童女ハ借字トシテ海野也

遼江天龍川上
雲和地名又同例

和名鈔古野と
布無素ノ訓例

万葉ノづノ歌ニ等夜乃野爾乎佐藝禰良波里乎佐毛

兔トシテ之トシテ東は俗訛トシテ和名抄國人の諸ニ準シテ亦多一トシカ

歌ハヨリヘ●山家未詳今唯佐久郡蘆田小山郷の地名にて有ム●須波ハ

今ノ源方郡ヨリヘ和名抄一字と省く中代に泉親衡、祖父諱方部太郎

扶衛ヨリ字マサト此住人アリヘ●跡部姓也絕えテ或人跡部アリ也

跡部 迹

トシテ一ノノ當郷アリト云梅に假名たゞニモ終行ハ●安曾郷廢

今本郷 下郷三村アリモ是則ナヒ茶ベアの事にシテ思被訛ル

●海部 麋モ地理を根考シニ北に海野有小丸子役派東西小村ニシテ小毛モこの地名也

海人郷アリヘ

●餘戶 麋モ和名抄也地名多レ今法書ともニ

廢シ洋ヨリモトツモ令義解曰若滿六十戸者割十戸立一里置長一人其不滿

十家者隸入大村不須別置也

トシテ余戸ハアリ餘戸ハアリ也(佐世)又佐久郡の

或云依田庄、餘戸の名は村一戸アリ

依田ハ信濃の氏族也或曰依田川 依田川内村川

山形龍頭吐水ノ仰モ地名辰口義仲アリ先

も云母小村一戸アリ也(佐世)●水上ハ和田の駒寺乃池トツツツ天井川

寄田ヨリシテ日一戸アリ

●ツツツツ小縣郡也名アリ也子ハ丸子郡内村ハ

科里名典卷之二上編

宇連部田中長背福當高志等と姓ありべし。●加島の村ハ下郷神社に比

方言カハタケトサハ誤り。天武紀神服部是也。或綺戸小作る山城国加幡村紙
神服正字。神護慶雲三年奉神眼天下諸社より也。更級郡の御平川も又

寺は。●神護慶雲三年奉神眼天下諸社より也。更級郡の御平川も又

神の祀る所は名ありべし。

佐久郡今属小縣郡。亘理より大畠三十六七里。

多古めくらや。

多古田龍。

按補津みくらの東に山すく井子ノ村と多古の字あり。井子ノ村と多古の字あり。井子諸村を属す石庵頂に古道入る。●地名一城戸

借字通用。

二城戸ハ井子村の山上に是新宿牧耕地。渓流を隔て東に菱野牧乃出

出東。小渚の北。●

沼邊の驛。

自井子大畠十四五里。

志船の集。家の字をあさはははぬ。方とてすあん火やうえをひ。源重之

沼邊驛廬不詳。沼向山の陽に大沼村。

名からて民家か。文禄年中村尚存。真樂寺境内に

大きり出水あり。沼の名にゆゑふへ西に至寄の地名わかはほきれすや

の沼をも金ヶ瀬と長法の御千代は廢沼と云て有伴。○此を乃後く

ヨリモナリ。不けくせむ。沼の名をも按舊監家集に名づけられ。不記

ツク。くろを玉す。ひじ沼。石川。川の底に。ふへ後河を出

も。かとす。使へて寳に。ひじ沼。石川。川の底に。ふへ後河を出

長倉驛。己亥自大沼大畠二十三四里にあり。

伊勢物語。

信濃りを沙間の歎に立つて。とらうら人のさんやへとがり。ひ

の。伊勢物語。卷之二上編

延喜式長倉驛長倉神社長倉牧又と今共に廢を按東鑑仁治
二年三月海野幸氏與武田光連上州三原庄信州長倉保の境を論ずる事
えり。之れより此據あつてノヤ世に傳へ駅ハ古宿あつてつゝも今は皆拭
かの跡乃遺名なり。浦野廢、ノヨヒル
沓掛存スナツカヘン。すこしも本倉牧へ發便馬取谷の便にあつて是に
駒形の神祠杉折スナツカヘシタマ。今地名杉折明應の記載賣スナツカヘシタマ。
按元明帝靈龜元年四月諸国造倉率爲三寺大受肆仟斛中參仟斛小貳
仟斛と云へたりも又ひよきの名なり。●長倉神社或考曰鎮座本紀曰
宇賀魂神爲根倉甕星神根稻畧語倉心也山靈稱石倉木靈稱子倉隱
岐國有宗岐良比賣神社按長訓宗私云長稻畧語倉岐良共通トシモ。好謙

朝國天師命之後長倉造りあらゆる倉地の名へ勿論かばべ長倉の舊名を
諫方神わすれとぞイリムニ洲羽の神と名づけ一推古紀曰三十五年五
月信濃國蠅聚至^リ上野國故^ススナリハ佐久郡の奉實と云ふ也
卷二十
宗久母理宇須比乃佐可乎古延志太爾伊毛賀古比志久和須良延

まへ上毛防人他田部首磐前古郷をうみ碓氷と越くと申すと
拾遺物名あら舟上毛筑前同名所
くふとこをもむらみよれふぬうせりへあくすひのゆゑとほくとやしん
山伏久と甘樂とよみ郡の間に至る形舟のあたふかよふと開は東よりハ風
山伏久とよみ郡岩村田の間「」と號くとも

倭名鈔佐久郡

御名八

美理

大村

大井

餘戶

刑部

青沼

茂理

以上和名觸

按美理子口傳訓

按孝德紀小德高向博士黑麻呂
更名玄理云理之口訓例

音便

美仁色にて新治 東鑑新張牧スルル 今三張村存亡属小縣郡
大村
村室諸衆邑皆通用

ムラハ君羊もわつてのま 按盛衰記の大室小室とつて大系圖大室時光人を大村

名あつて、東金不井庄、仰院御令
暫爲白皇居及美福門院云云。新編纂圖

月於岩村田館卒。太平記建武二年十月大井城攻戰之日也。岩村由

太平記 建武二年十月大井城攻戦トシ
館地名

管領記、永亨十二年足利持氏季子子永壽王允甯用千信濃國大井記也。後文安二年遷鎌倉左馬頭成氏是也。世稱古河公方。城主大井越前守持光壽王外戚。弘治記云。東監岸久大井伴野。久和名社。

文明十六年二月爲村上氏大井兵火城陷とへマ
信濃國ニツの大井ニツの俸四百石ウリ
余

大井處士城一卒賀兵と出所東洋ノリと佔久之原トウヒヨリモテアリ
支祿年中横鳥三百
或云山城國

宇治郡餘戸摩ニ與古木村存モ今近江國滋賀郡ニ属モトヨリ也

さくふんじよ右取ハ餘戸の御イニシヤ訝イフカ——三代實錄貞觀七十詔、信濃駒

牽毎八月十五日に定まること御歎に壬午の名をもとえりあり

御名をかねにあらうもあらうとも ● 刑部已に廢止するを以て
地理と考へるに、その地へ大体のきにあらうと廢止するを以て

今へ岐跡部の地名ある。

●青沼廢未詳按入江に残部の地名アリ西六十町三條の名を此をも
之地港より水災に至ル。天正記に上越下越三分からん。三分半限
河水配の地 訓分々久麻里 三分より東西分ふるをもとと申込つり
トれか今乃地と申ひトソヒドジモ、ひづれの江、洪山一郡は仲と申
後は地勢小溝と東の流へ絶ち、おどす。●茂庭按今之長田井ヲ
一ノ和名傍例備前國御名物理ニト井に同一トロヒルトセトタク
相モトモサシ物理ハモトリヒリヒタニト異せモモロ井は口井の約リヒ
リヒムヒモトツヘトシハ主水也日本紀景行紀にテヒミナヒト進
ヒテ催馬樂スミヒシモジヒトウモヒト後世承久記ニ雍中三望月
冷木

小西郎かと記すをひのまひのまひの地名小敷多一。●小沼已廢で大沼村
ミト文禄空本のち失済に亡村が及ケルトアモ沼をばくまやも小沼
御子の地名タヘ一地名に大小との差ハ因ク敷多一常陸志曰
新治郡巨神古加美今小神邑屬筑波郡巨或作大國人常以巨爲小者多ヘ
●つゞク佐久郡の地名母止理部大伴部太田部阿力部竹田部大村蘆
田大右春白部布勢志賀生藏田口櫻井の敷多カガモヒニシテアリ。一阿刀部
八跡見部の畠也上古は御持ニ鷹飼部犬養部射部跡見部等アリ或曰
周禮に述人重ア述之言跡知會歎處アリ。●勝間村に王城トツハ
アリ按光仁紀小掃守王之男小月王信濃国に治テ小宝龜三年復属若
姓勝間田と賜ヘ事アリ。トモ族ハ毛を地名アリ。●本郡ヘアヒ英田の神名

和名傍例多一又蛭科郡英多御
ノシ今按スマカタト御モヘ
廢て今あくのをだ

モアの
ムカタ
モアの
ムカタ

對々縣のとわりりむ千隈河の水災にうれしき事

信濃境碓氷嶺
坂本(大里許)自長倉大畠十里

本宮山三首歌

卷之三

おにぎりを食ひてゐる。おにぎりを食ひてゐる。おにぎりを食ひてゐる。

かくまく白床も雪の丈一とひま

「上野國碓氷郡坂本 和名佐加毛主卿姓氏錄上毛野坂本朝臣豊城彦命十七世孫佐太
万葉十四上毛國哥 之後也 云 云
比能具禮爾 宇須比乃夜 麻乎古由流 日波勢 崇能我素
低母佐夜爾 布良思都

國郡名義考

信濃國在東山道域延喜主計式曰信濃國上

令國四等有大
上中下之差 管郡十

令郡五等有大
國府筑摩郡行程上三十一日下十日
里車三十里步五十里

鈔見千郡十郷六十七 伊那郡領郷五
統村今若干 隅方郡領郷七 統村今若干

筑摩郡領郷六 統村今若干 安曇郡領郷四 統村今若干 更級郡領郷九 統村今若干 水内

郡領鄉八 統村今若干
高井郡領鄉五 統村今若干
埴科郡領鄉七 統村今若干
小縣郡領鄉 統村今

統村今
八若十
佐久郡領鄉八
統村今
八若十

凡國郡の名義、諸名家は說あらず、以て大異名とあくに描じ。國 義不詳

今も新鮮の俗語とも言ふ。君ニボリ草井の方言を以て、
アカタ
今も新鮮の俗語とも言ふ。君ニボリ草井の方言を以て、

郡の名へ申せんより。●海里サト

御の割れより本朝より御の義詳りをとるゝ事へ御室の字をとてサト
トシヒ和田は源に諸国郡御と記すル延喜式入諸國部内郡里トスヘト一曰
御スム寛校の日トスムニカツモトスム凡戸居被御有樂遷就寛と處置スギ
法あつモトソミ・村ムラ聚也シ、どもあつモトの義又色の字漢てムラトソスは
日神天邑君とえり成務紀に國郡邑里トミシタヨリ景行紀村の字漢モソト
ソハムラトソスの物シモトソマ

信濃國名義未詳

或云日本總風土記 朝野群載曰延長三年十二月十四日太政官首曰 舊て傳
五畿七道諸國司應早速勘進風土記 云
子曰風土記卒餘卷淡海公時令ニテ多シテ延喜式時成就レヒト代彼レヒ 信濃は國名の
故名スラク今至く殘本モトソアレト後ノ正本モテト見ムヒト也 信濃は國名の
古ノ代ノ跡史ニテナムモ說アリシテモハタクタム事モテ近く加茂翁
の說小據に信濃國ヘテ科野ト書くナレ地名トテ科の下モタクモ
山國ナム階級ナム地の名トクモチヒタリヒトモベークモムシヤ

按本國地名埴科倉科穗科御科妻科波用科仁科
海ノ代ガヨリ子ナシヒト明科尾科駄科蓼科等也皆是科坂在地

●伊勢郡 伊勢へ大郡南北七十余里トモ甲斐國と擁テ信濃國と
帶ナキ接ニ伊勢郡ハ信濃の惠素郡 貝原氏曰惠素郡ハ 横長ミシテ入郡
郡ノ義モハ代ヘ生齒少シ小鷹野タマリシ今モ南郡七十里ヲ
シテ名はムモ健多くスルモ

●須波郡 榆竹久小縣筑摩伊勢四郡ニテナム上古の例羽比國内モ廣
一トおひる草昧の時山のモハはにゆる名ヲ科乃ムヘテ今ノ地バ天平ノ年
界シリモ大古代神科モヒ自キム主張神のみ偏小の地小屬故ナシ
天平三年諏方國並信濃國同十年諸國造郡圖奉和銅四年上野國多古郡
置ヒテノ碑今尚残リスのク並省置建必碑碣カタマリト 和銅元
年大隅
國同五年出羽國同六年丹波國美作國靈龜二年
和泉國養老二年安房國能登國等造郡 云

筑摩郡 和名豆 はうほ 邑小束間 日本紀 村あり接せ地草創の地名後子郡

と送する名に及一豆をほへ豆加と高さ義間へわゆることなしには
腋上嫌間の向はあく地理を又ほおつまハ西に斜く斤立の地勢りハ
師名立都久麻の例恭金一犀河ハ筑广安曇は二郡と貫て北に流と
東西乃激流十余川尾全く上吉のゆゑ郡より溢一の豆加萬ハナみる

臨り

安曇郡 和名阿後世音ヒヒカニヒミ安曇郡穗高神社ハ保有ヒ
都之 神名式

シム小いまと名神大當郡西の方を飛彈國小坂合仰キモ保高嶽雲ヒシテ

連山左安コ堅立ヒ神號も寔小據る古事記曰綿津見神者阿日雲連

等之祖神云姓氏錄曰安曇宿補海神綿積豊玉彦神子穗高見命後云

又海神後海犬養の姓もアマナリ加茂翁曰后ニハ海アマトモ綿積タツ
の約ツ也ワア通レム阿曇アマニアツヒシウトヨリシム今大町乃奥に
海行跡シムトナリト音本高ヒミクリ次ヒ中ツハ乃高ヒミハヒシ海行
シムニニの海ハ太さトヨリアマナラヒトヨリヘシ邊ヒニ科シムサモの總名
地草創ヒシヒト添マヌシ神の勲功仰ヒシ

更級郡 和名佐 良志素 本ヒモアマヤク本國人階坂多く科の地名も多くアマトモ

科級階の字地四カト通用ヒモソウ中に文級又疋級の字ヒ用ヒシモ
神樂木綿作歌ヒ由布川久留志名乃波良仁也安佐太徒補安佐太鬪補
安左多津補也一條左大臣雅信作云

科級の義アマト一作良志素の地名ハ級は字ヒ用ヒシモ科の義アマトモ

科級の義アマト一作良志素の地名ハ級は字ヒ用ヒシモ科の義アマトモ

科野名典考 卷之上編

在レノハ舊説シナテ木皮ハ白一中ノモホカナ國ニセモトミハタク
色白シテ諫方の御裝束は前後不服用ラクヒマニ接に更級ハ木の
名小サキ真級ナリモヤ 佐良佐宗 佐祢通用 古事記の佐那葛ハ方葉ナガ根葛ナム
式内加志佐志の神名アツモ武藏オカモトシテモアシカ 倭名鈔更級郡
更級卿名ナリモ此地の開闢之時の名シテ後小郡の名に及びウリト
ルニシテ

穀木綿拷之諸説

拷幡 日本紀 拷食日本紀 拷衣 拷領巾 拷角方葉 拷繩 古事記
日本紀纂疏 拷訓曰多俱於言縁也トシラフハ

舊事紀日神天磐戸トヒーアリモナモ 時に 中畠
以爲青和幣復令津咋見神種殖穀木綿以爲白和幣並一夜蕃茂也復令天日
曉鳥神造木綿トスカト 一說陶隱居本草注杜仲一名木綿折之白系多トアリ
吾國の由布川山木綿ナシテ用ハリシテシモ

麻 古語 フサ 読てヌサ其子カラシリニヲヒツノ苧 カラムニ ● 穀 和名鈔玉篇と援く

楮、穀木也 ● 築紫風土記と援く長木綿、麻也短木綿、苧也 ● 日本紀私記曰
木綿、自有木綿之樹即矛麻手其皮以爲之 ● 豊後風上記速見郡抽布鄉
此郡中楮樹多生常取皮以造木綿因曰抽布鄉 拷似赭色白ナカイナ吾朝のタケノ樹
● 古語拾遺曰穀木是木綿也又穀木所生謂之結城 ● 一說東國俗ニトナ
シの其木ナリヘンシナの圓ヘツヒ也トソニ事有ム古語小白色と參く
白栲トソリヘンシナの圓ヘツヒ也トソニ事有ム古語小白色と參く
シラの木と云次乃特トナシハ古役にシラトソリトシナモソヒリト 以上
トソリナシ栲也ハ旧事紀の文と改竄シ穀即木綿也トソニ事有ムトウト豊後風土記小
穀ト木陰二物トナシトソニ事有ムトウト豊後風土記小

もくとく考とて本筋の考を以て本筋は左に考とよてあまくらじ
説にもかく由布ハ神代アキラムラハ神の眉乃とに生金ムニ肩生ムニ後小
畠トシテアムニ後穀トシテ遂に由布多クモチシテソノ
穀カチアリ門も城の又エ穀由布リテ城も布ヒ白多倍ヒ多倍ハ布大ト
又エ萬葉乃村の字ハ艸はの村也○村ユフト訓即指此考ハ本
ノト後ニ筑紫ヘ移シワタリ是ヒ仰ヒテ先トモセヒ度ドリテ後ハ
綿の字モユフヒツキシムホモ白考花キヤウス考皮ヒモセヒ度シムホモ神ニ
奉ルユフモアリモ考シ●今按古語ニ級トシテ考ヘ此固の方言トシム則
由布はくも本筋ヒムホモ考ヒムホモ古語の考は穀ヲシテ影リアリトシム

舊說レナの國アリハ今既テモ多の郡ナリモヘ
アシマハ異木ノアモ用ヒタモレニ堪ミ
スルモウナハシナの木皮トソレ仰アリ
古語のレナ色白モリテラモアリの難本ヒツヒアリ
トおや少駿ヒ數千疋俗の抄仰スルカシ
按本固山中產物数万疋底布國奉ぬヒ
袋ナリ伊勢山中に生タフムのアメハ猪の皮ミシケル
布の抄仰スルアシ本集守布彦源仲正いとうひでよしヒシヒテ立木人たてきじんのアシゲト
モヘク構カタ方言
加受ヒ考業ナリアル山中市ナリテ支易モ牧鳴の波アリ
察白役郡の及ヘアホカモ
主計式信濃國

水内郡 和名美
乃知 みのうち郡に水内付あり此北ハ戸隠の峻嶮小より東南に岸河を帶び西小堀川東に至る大河有ニ一島はめ一小因核は考証をうつて之をなすわざ一按に水のうちが名多くおゆすかへ後又郡の名にてとづ

きしん塙囊鉤曰信濃國ハすゞ地を子供に此教のすゞと小姓也郡より
此後おひつうか一ノ十郡いつひりすゞ今法はと水源とも多井川ハ千
隈河岐曾川天竜河不二川姫川泉川堀川らよ腰にかまくら、大井河荒川
神奈川利根川等甚か幾省へ一几十隣国の首領他の高き事かくめ
高井郡 和名太 東南四阿山アラヤの高根タカネと大倉山高倉山三國嶺アラヤ
上モ賀爲 越後アシカニ山
アモアセ西北斜に聚落を孕すを千隈河ハ郡のゆと率て東北に屈曲を
郡の中央か高井節村アシカニ 馬寮アシカニ是も郡名に及て一郡の名を有すをもへ
按高井の名ハ山以下田處より來すへ又井上より地名を云ふも了井大井
の方より上は意もあらず

埴科郡 和名波
ふハ科坂のうち北山
北科多々一梅いみ
ひび縣乙ノ

らすもアヒハ行科トシムニ界トシモアヒアヒ食科ハ食部ハ科モヒ
穂科ハ萬ニセビシ穂ハ不穂ノ穂メ喜ナリト高ミトヘアシ御科の御音字
みやめニカヒのみはめ一岐田科キタ 会澤ノモ義^{ヨシ}科ハ仮字ニテ根乃科
タクツキト一字の獨補子^{チヨ}と泥モ色リト此山の神社義參モ好ナムトハ俗小字の
理トシムニサムヘ

主政主帳等は官と定められ、もいみの縣主寺の割改をうそと又縣名後ハ郡の名トヨリシモ伊勢物次小縣ヘソミリテ云紀承え土佐日記小あくは四ノミニシテ
みよあてすといへ萬葉集天平勝宝七年國造少縣郡他田舎人大島う歌を載ス
越郡とよき道ノヤミリヒ

佐久郡 梅作久は先須波の國なり。此郡甲斐と毛の間に也。至ての
郡に疎^{サカシ}め義^{ヨシ}なり。山字^{シマシテ}似東首^{シミトウ}。或信濃國形^{ヒトツノシロ}或天平三年割割の義^{ヨシ}も以諱^{シテ}國並^{シテ}。信濃國事^{ヒトツノシロ}へ類聚^{リョウジ}國史^{クノシロ}にゆく。今大典の國^{カタ}もふわ^ハと佐久郡^{シマシテ}名^{メイ}へり。毛^モと
貞觀^{セイケン}の鏡^{カミ}に見^ミらす。

つひて又上毛國甘樂郡ハ佐久郡に隣キテ甘樂ハ信濃身狭ミササギの波婆摩
にカモニ隱國の也すとあら名づちを一此鄙南の上毛をかゑ流せ武能は

伊川を神奈川よりひ西牧よりかま清と蘇川とも二川は名より甘樂川奈川
甘樂の北碓氷郡ハ佐久郡小坪^ノ碓氷郡名義未詳 碓日坂日本紀 宇須比
坂万葉 碓永和名 笛吹野史 卷井同 臼井東鑑^又 熊野權現鍾
命後笛吹連ト又フニの訓又 等
字吹太字紀 又是にうづくも 名義一說日本武尊以地に蹲踞不歩ウツクシ 之立說山賊
老棍^{アヤ} ほんほく相岳の笛吹坂也^{アヤ} おほづくら銀竹姓氏錄大明 之或
磐野の社と云ふ涌出向井川の水源に上古麗泉に石臼と云ふ名而以
ナカムハ常陸国新治郡碓井には泉を取の申すを涌出之又河内國古市
郡碓井村もあらきと申すなり
核せひするわがべきよりかう古書に碓日
字須比碓氷とあひて假名に之と行考へ
吾妻郡ハ碓氷に背^ヒ 北^ヒ やす接
郡名、旧まに櫛^{スラグ} と名づちやがちに也のに以て之へ
字須比故事に在るべし

わくまほづは郡のれくに温泉ある 梅草津ハ喫水し貝原氏
とく吾妻川ノ派田入野ニ衆水會して利根川と云宗祇方角川に吾
妻川是うふもわづまは里へへほす ● うつまた私小を波の湯をへてゆる
志萬峯此地りうや

文庫本中古のもの

神祇伯顯付印

○涉信濃坂 左太史正六位上兼行伊勢權大権坂上忌十今述
御坂條下追加

○涉信濃坂

左太史正六位上兼行伊勢權大権坂上忌十今述

積石千里峻危途九折令人迷遠地雪馬蹠半天雲岩冷花難笑溪深景易曠

鄉關何處在客思轉紛々

見凌雲集・賀陽豐年小野岑守

國郡條追加

○保庄 按孝德紀三年四月造戸籍

中畧

凡戸皆五家相保

一人爲長

元明紀和銅四年凡私鑄錢者斬

中畧

五保知而不告者與

同罪

云

拾芥抄

三百保と

云是也 東鑑承久兵亂後諸國郡鄉庄保新補地頭所勢之吏更と元丹後

國志樂莊伊彌保といひ併列長倉保ともえゝあり 駅傳長倉條えゝ有

て此時保の義已す

矣べと云未詳

武家の代々零々一將にて定ふ不既

貞永式目にも郡鄉庄保云

村にてある是後倉時代の名主庄官

も今庄屋大庄屋の名にそよぐぬ 或云後朱雀帝时庄園廢停の宣下ありし

も行かんも又云唐武德の制四隣為保

保正の

宋神宗十家為保五

卷之二上

卷之二

古

十家爲都保ありきの義にて直之庄と謂て保とす事も又とぞ

○伊宗真人 信濃守源爲公 為公其先六孫王の四男滿快の孫にして甲斐
守為滿の子也母ハ河内守頼信女也 名家

為公其先六孫王の四男滿快の孫にして甲斐守為備の子也母ハ河内守頼信女也

甲辰
名家

大系國伊那馬人工作ノハ備字也或、
馬本人伊都馬かと云フハ傳写の誤
伊奈郡知人

今阿岐のあかんの山の底山の珠子を下りると
其流を傍く本因に着
かる陣珠は後戦の半えを活潑の地程あるなり

中津 佐那 村上 謝方 飯沼 平塚 松本
室賀 薩摩 植田 平塚 小田 蟹 小田
佐那田 二桺 村上 夏目 依田 手塚 謝方 飯沼
那須 大嶋 等於

○成中武天皇小多々之元易及之
真道見

武天皇東征の御代を以ての年
命子
アラタニヤマシキ
山
和田村よりを列アラタニヤマシキ
火家村、六八里
して續て青崩の峻嶮わたり是を便りト

卷之三

神廟 延喜式載信濃國四十八座

大七座少半一座。文德寶錄曰嘉祥四三
天下諸神不論有位无位共叙正六位上云之

大山田神社

一云孝元天皇五年天八意命神兒將牙力雄命
天降信濃國吾道宮鎮座牙力雄命戶隣山遷座云
式和

世田神社
三代實鑑直觀
年四月授從五位下
不後己亥四月受元方

諏方郡二座並南方刀美神社名神二座
大

德實錄嘉祥三年十月授兩神
勲八等南方刀美命神從五位

下同十月授元位便御名方富命神從三位
從五位上仁壽元年十月進兩大神階加從三位同八月兩大神
年正月受玉三立力八等建御名方富命神從三位

神祝預教把笏三代實錄貞觀
坂刀賣命神正三位同二月授兩上

神社同九年三月進兩神階
年却既中央却至申

外 汁生 祀 福
十月授從五位二
授從五位下。神名秘書云客神社一座建御名形命

同時

一云御既神云云按御既御玉神亦同神号もゆべ

社式須々岐水神祠

貞觀九年三月 檻井泉神社受之元慶五年十二月

安曇郡二座 小一座

授從五位下

卷之三

○科野名與勢

卷之上 編

穗高神社

名神大・姓氏錄曰安曇宿禰海神
綿積豐玉彦神子穗高見命之後

川會神社

式外梓水

神祠

貞觀九年三月
授從五位下

更級郡十一座

太一座小十座

布制神社

波門科神社

佐良志奈神社

當信神社

長谷神社

今按貞觀二年二月授馬皆神從五位下同七年

三月授馬背神從四位下同九年三月授從四位上馬背神從三位以上神名疑らくハ長谷と傳寫誤るか記或野馬背は脱字あり凡て卷高井郡下出セラ式社の長谷万葉小長谷郡至磨和名小谷郡名共に之を記すト一和名鉢の例小二字を省き小の字にヒラキ小長谷郡と云ふアリモトアリモト今塩崎又属して長谷郡をアリモト也

日置神社

清水神社

氷鉛斗賣神社

頤氣神社

治田神社

武水別神社

名神大・貞觀八年六月授凡位武水別神從三位同九年三月詔以武水別神列官社入御賀川り祭のみひへばせり

水内郡九座

大一座小八座

美和神社

按大三輪といづさなひやいりハ相殿の神カワリム

六月授草奈井比賣神從四位下草奈井三字恐バ具未利の誤るト一國生神、大己貴命江父の神名より伊勢は攝社ハ大土御祖社三座、少々ア大国王命同兒水佐佐良比古命女佐佐良比賣命と祭於大国王命ハ大己貴命の別名白主太神宮儀式帳云國生神はみこ也云伊豆毛神社今按出雲國出雲郡出雲

白主太神宮儀式帳云國生神はみこ也云伊豆毛神社

小川神社

守田神社

貞觀元年二月授從五位下守宅神從五位上

栗野神社

同神名亦貞觀三年二月授出速神從五位下此神名恐バ脱字アリト同十五年四月授出早雄神從五位上元慶二年三月授出速雄神正五位下今按以上の神名當社ハアリマ大和國の式社出雲健雄神をアリスアリ同号也、妻科神社貞觀二年二月授妻科地神從健速須佐之雄は命ヲアリヘ一

妻科神社

貞觀二年二月授從五位下同五年二月授從五位上

栗野神社

風間神社

貞觀二年二月授颶別神從五位下今按別字間の誤り也

白足穗命神社

ト部兼水本作

健御名方富命彦神別神社

名神大・貞觀二年二月授從五位上

式外

神部神祠

貞觀二年二月神祇宮奏言のアリヒニトモ

高井郡六座

並

黒室坂神社

越智神社

白玉足穗命

笠原神社

小坂神社

高杜神社

埴科郡五座

並

粟佐神社

坂城神社

中村神社

玉依比賣命神社

貞觀八年六月授元

位會津比賣神從四位下

祝神社

小縣郡五座

大二座

生嶋足島神社一座

名神大・按宮中神三十六座生嶋巫祭神三座並大月次新嘗生島神足島神貞觀元年正月奉授神祇官無位生島神足島神並從四位上同二月授正四位則是也舊事紀曰生島是大八洲之靈也

